

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ

<http://www.kagyoren.jf-net.ne.jp/>



JF
JF香川漁連

高松市北浜町 8-25

TEL 087-825-0350

FAX 087-851-0699



謹賀新年



香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長 嶋野 勝路



新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

昨年12月には約70年ぶりに、漁業権の優先順位や特定区画漁業権等を廃止する漁業法改正案が臨時国会で成立しました。漁業者の生活に直結する法律であるため不当な不利益を被らないよう適切な運用を期待するとともに、国に対しても申すべきことは申し、今後も豊かな浜を子や孫に残すべく努めてまいりたいと存じます。国内経済では今年10月には予定通り消費税が10%に引き上げられることから、デフレ脱却の道半ばにありながらの増税による景気の悪化が懸念されます。また海外では北朝鮮、中東情勢の緊迫化、米国トランプ大統領による中国との通商政策を巡る対立の激化、イランへの経済制裁による原油価格の推移等、日本経済への影響が懸念されます。

一方県下漁業を振り返りますと、漁船漁業では、天候や海況の変化等の影響もあり、カタクチイワシ等の一部魚種を除き、昨年に続き全般的に漁獲量の減少や魚価の低迷が続いており、漁家経営はますます厳しさを増しております。魚類養殖業では、燃油価格や漁業資機材の高騰、輸入水産物の増大、餌飼料価格は高値等のマイナス要因もありましたが、比較的堅調に推移していると思われます。

本会といたしましては、引き続き県内水産業の振興に努めるとともに、「浜の活力再生広域プラン」に基づき漁船リース事業や機器等導入事業を推進し、地域全体の競争力強化を図ってまいります。ま

た、水産資源の安定供給及び漁業経営の安定を確保するため資源管理型漁業の普及啓発に努めるとともに、燃油及び配合飼料のコスト高騰対策である漁業経営セーフティーネット構築事業を推進してまいります。

昨年はハマチ養殖90周年の節目となる年であり「さぬき海の幸販売促進協議会」の事業として県内各地にてイベントを行いました。11月24日・25日にはサンメッセ香川にて浜田香川県知事等が出席の下、ハマチ養殖90周年記念フェアを開催し、12月にはさぬき海の幸PRキャラバンとして豊洲市場を訪問し、市場・流通関係者に県産ハマチを中心にノリ、イリコの他、讃岐でんぶく、讃岐さーもん、さぬき蛸等の県産水産物のPR活動を行い、販売促進に努めました。本年も昨年同様、関係団体、県、系統、業界が一丸となり県産水産物の販路拡大、知名度向上を一層推進するため活動してまいります。

また、本年は漁協創立70周年の記念の年を迎えます。今後も厳しい経営環境が予想される中、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げる次第であります。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県かん水養殖漁業協同組合**代表理事組合長 高 野 勇**

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり謹んでご挨拶申し上げます。

昨年のかん水養殖業は、ハマチ、カンパチ共に種苗の池入れは順調に進みましたが、7月の豪雨等の影響で、赤潮プランクトンが異常発生して県内のほぼ全域で赤潮警報による餌止めになり、赤潮による被害も発生しました。度重なる赤潮や台風などの自然現象により、ハマチ、カンパチ共に若干の成長遅れではありましたが、例年通り9月中旬から出荷が始まりました。

カンパチは1,050円からのスタートで、11月中旬には昨年より約1ヶ月早い完売となりました。昨年と違い、水温の心配もなく浜値も安定し順調に出荷が出来ました。

ハマチは昨年と同じく880円からのスタートで年末には850円となりました。ハマチについては成長の遅れが心配されましたが、生産者の努力により若干の遅れはありましたが、例年通りの出荷サイズとなり、浜値も安定して推移したので昨年に続きまずまずの結果となりました。県内のハマチ約4万尾が年越しを余儀なくされましたが、1月中旬には完売する見通しとなっております。

昨年は、ハマチ養殖90周年を迎えました。本年からさらなる100周年をめざして、さぬき海の幸販売促進協議会と協力して県産ブランド魚であるハマチ3兄弟の、ひけた鰯、なおしまハマチ、オリーブハマチの販路拡大について気を緩めることなく、積極的に取り組んでまいります。

また、新ブランドとして昨年から売り出したオリーブマダイが、1年目から高評価で、更なるブランド強化と販路拡大にも取り組んで参ります。

なお、漁家経営を圧迫する餌飼料価格の高騰対策としてセーフティーネット構築事業や生餌調整保管事業等の推進にも引き続き尽力していきたいと思いをします。

本年も県水産課並びに香川県漁連、系統団体と更なる連携を深め、役員一同一丸となって運営にあたる所存でございますので、尚一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、関係各位の皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 香川県海苔養殖研究会**代表理事会長 西 口 正 弘**

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年6月を以て香川県海苔養殖研究会は解散の運びとなりました。今後の業務運営等を考えまして、引き続き一般社団法人香川県海苔養殖研究会として、新たにスタートをきる事となりました。関係者の皆様のご支援、ご協力を賜りノリ養殖の発展に努めて行きたいと思いをします。

また、平成31年は平成最後の年となるようで5月からは新元号のもと新たな年の幕開けとなるようです。また、10月より消費税の増税が実施される模様です。

昨年漁期を顧みれば、当初、本県の年内生産量は食害、伸び悩み等により前年を下回りました。年明け後は概ね順調に生産されましたが、早期の色落ち等により枚数では、ほぼ前年並み、金額面に於いてはやや減少となりました。平均単価は前年を下回りました。尚、下物については前年の反動もあり無札品が1,000箱あまり発生致しました。

政治の世界では外国人の雇用拡大に繋がる入管法が与党の賛成多数で決定されました。本県ノリ養殖も人材確保の観点から注視していきたいと思いをします。

本年度他地区の共販結果を見てみますと前年より幾分弱含みで推移しております。本県のノリ養殖は水温等の影響もあり育苗・本張りは例年よりやや遅らせての開始となりました。

そうした中、30年度の初共販が開始され数量は約506万枚（前年比62%）金額で7,021万円（前年比56%）平均単価13.87円（前年比86銭安）という、前年を下回る結果でした。今後の生産本格化に期待したいものです。

また、年々減少する生産者対策として後継者研修等を実施し、生産向上を図り魅力ある環境にしていきたいと思いをします。香川ノリの普及PR活動に於いては各種イベントに参加し消費拡大に繋げたいと思いをします。また、初摘み認証マークの認知度をさらにアップするよう尚一層の努力をして参る所存です。

最後になりましたが会員各位、関係者の皆様のご健勝と本年漁期が良い結果で終わられることを祈念申し上げます、年頭のご挨拶と致します。

香川県無線漁業協同組合**代表理事組合長 嶋野勝路**

新年、明けましておめでとうございます。

平成31年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には、格別のご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、平成28年8月に北朝鮮はミサイル発射実験を行い、日本の排他的経済水域内にミサイルが落下し、また、29年8月9日には、米領グアム周辺海域へのミサイル発射を警告し、中国・四国地方の上空を通過するとの報道もありました。このミサイル発射は中止になりましたが、本県はもとより周辺海域で操業する漁船にとって大きな脅威となりました。

このため、操業中の漁船に対してミサイル発射情報を迅速に伝達し、操業安全の確保を目的に、国の29年度補正予算において、「漁業安全情報伝達迅速化事業」が措置されました。

この事業は、北朝鮮からミサイルが発射された情報を速やかに伝達できるよう全国にある海岸局の情報端末で音声に変換し、自動で船舶局に情報発信するシステムを導入するもので、当組合では8海岸局が対象となり取り組んでいるところです。昨年12月以降順次無線機等を設置しており、本年3月末までにはすべて完了する予定で、海岸局では4月から迅速な情報発信体制が整備され、漁業無線のより有効な活用がなされることから、漁業操業の安全性が進歩するものと考えております。

本県の漁業を取り巻く環境は、漁業後継者不足、漁獲量の減少など依然として厳しい状況下にありますが、当組合におきましても、高齢化に伴う組合員の減少や無線利用者の減少が続く厳しい状況ではありますが、本県の基幹漁業である漁船漁業の発展のため、漁業無線の円滑な運用に努めていく所存ですので、組合員各位をはじめ、関係官庁並びに関係団体からのご指導・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、皆様方のますますのご健勝とご繁栄を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

**一般社団法人 香川県水産振興協会****会長 嶋野勝路**

新年明けましておめでとうございます。

平成31年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当協会の業務推進につきまして、会員を始め関係者皆様には格別のご支援、ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、西日本豪雨をはじめ、大規模な自然災害が多かったように思います。長期予報では、年明けも不安定な気候が続くとなっており、水産資源にどのような影響を与えるか気がかりなところ です。

また、漁船漁業ではハモをはじめ豊漁となった魚種も見られましたが、多くの魚種で漁獲量が低迷しております。特にイカナゴ、イイダコ、アナゴ、エビなどは減少が著しく、資源回復を切に願うところです。

当協会の事業としましては、4月初旬から12月初旬までヒラメ、クルマエビ、キジハタ、メバル等の重要魚種の種苗放流を例年どおり実施し、水産資源の維持増大に努めました。また、水産資源の維持とともに、魚食の推進が大きな課題となっております。当協会では、県下で水産食育教室を実施し、学校給食にはハマチをはじめとした県産水産物の食材活用を推進しました。

近年増加している海中転落をはじめとした海難事故については、関係機関と協力し、ライフジャケットの着用推進に努めております。小型漁船の着用義務化をはじめ、会員の皆様に法令順守に努めていただくようお願い申し上げます。併せて、ネットローラーの巻き込み防止装置につきましても、設置推進を図ってまいります。

漁場環境保全対策事業としては海浜清掃事業等の支援を行いました。昨年も度重なる大型台風の上陸による影響で大量の浮遊漂着ゴミが県下海域で発生したため、回収に大変苦労された地域も多かったと聞いております。

最後に、平成も4月30日をもって新しい年号に変わりますが、平成31年が事故無く豊漁となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者皆さまのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 岸 宏



新年あけましておめでとうございます。全国の組合員並びに J F グループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返りますれば昨年、70年振りの漁業法改正を含め、わが国漁業の成長産業化に向けた本格的な改革の議論が行われた歴史に残る1年でした。

我が国漁業は、2013年から産出額が上昇に転じ、若い就業者が増える等、明るい兆しが見えております。そして我々 J F グループは、6年前から「浜の活力再生プラン」の実践に努め、その成果が確実に出てきており、浜は活気を取り戻しつつあります。

こうした中、改革の議論は進められましたが、我々の最大の関心事である漁業権制度については、今後とも維持することが明確にされ、共同漁業権はこれまで通り J F・J F 漁連以外には免許されないこと、区画漁業権等は、漁業権を適切かつ有効に活用している J F に対して優先して免許されること等が定められたところです。

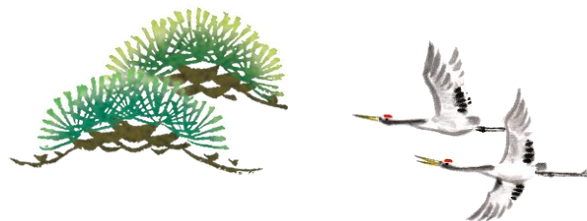
今後、我々はこの水産改革を自らの課題とし、不退転の決意をもって、水産日本の復活に向け、必要な改革を大胆に進めていかなければなりません。

このため、昨年11月には全国漁民代表者集会を開催し、我が国水産業の輝かしい将来を築くため、浜の再生に果敢に取り組むことを誓い、十分な財政的支援措置を含めた革新的な政策の確立を関係要路に強く要請したところです。その結果、昨年を大幅に上回る予算を勝ち取ることができました。ここに改めまして、会員並びに関係の皆様のご協力・ご支援に対しまして御礼申し上げます。

一方、現下の漁業環境は、不安定な燃油価格、外国船による違法操業問題、風評被害対策を含む復興支援など、依然として課題は山積しております。このような中、本会は新年度から新たな5カ年の中期経営計画に取り組んで参ります。

また、水産改革が運用面において漁業者の理解を得られるよう対応していくほか、浜プランの取り組み支援、次世代を担う中核的漁業者の育成、産地市場統合等の流通構造改革、輸出振興を含めた水産物消費の拡大等に取り組み、浜の構造改革や所得向上に向けた漁業者の取組を支援して参る所存です。

最後になりますが、全国各浜でご活躍の漁業者の皆様への操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



乾海苔初入札

平成30年度県内産養殖ノリ（乾海苔）の初入札会が、12月15日（土）高松市瀬戸内町の本会共販所において開催されました。



第1回共販の様子

今年の本張りについては、海水温の低下が鈍い為、昨年より遅い張り込みになりました。その後、極端な寒暖差・風波の影響により伸びが低調となり、加えて食害被害も昨年以上あり、11月下旬からの生産となりました。

結果、初共販の出品枚数は少なく5,061千枚（昨年8,080千枚）前年対比63%、入札金額は70,214千円（昨年119,093千円）前年対比59%、平均単価は13.87円/枚（昨年14.73円/枚）前年対比94%でした。また、12月24日（月）に開催された第2回共販結果は、入札枚数11,070千枚、入札金額152,362千円でした。これから県下全地区で本格生産に入りますが、今漁期の豊作を心より期待致します。

今年の共販日程は1/11（金）・1/18日（金）・1/28（月）・2/8（金）・2/20（水）・3/8（金）・3/18（月）・3/30（土）となっています。